J287
　衛星間業務によるこの周波数帯の使用は、静止衛星軌道の衛星に限る。全ての条件及び全ての変調方式に対して、地表面から1000㎞までの高度及び受動検知器が存在する全ての静止軌道位置の近傍で、衛星間業務の局により生じる単一入射電力束密度は、全ての仰角において－148dB（W／（㎡・MHz））を超えてはならない。
J288
　地球探査衛星業務（能動）による使用は、133.5―134GHzの周波数帯に限る。
J289
　この周波数帯では、地球探査衛星業務（受動）及び宇宙研究業務（受動）に対する分配は2018年１月１日までとする。
J290
　固定業務及び移動業務によるこの周波数帯の使用は、2018年１月１日からとする。
J291
　衛星間業務による174.8―182GHz及び185―190GHzの周波数帯の使用は、静止衛星軌道の衛星に限る。全ての条件及び全ての変調方式に対して、地表面から1000㎞までの高度及び受動検知器が存在する全ての静止軌道位置の近傍で、衛星間業務の局により生じる単一入射電力束密度は、全ての仰角において－144dB（W／（㎡・MHz））を超えてはならない。
J292
　200―209GHz、235―238GHz、250―252GHz及び265―275GHzの周波数帯では、大気成分を調べるため、地上設置型受動大気検知を行う。
J293
　237.9―238GHzの周波数帯は、宇宙機搭載雲レーダーの場合のみ、地球探査衛星業務（能動）及び宇宙研究業務（能動）にも分配する。
J294
　受動業務による275―1000GHzの周波数帯の使用は、能動業務による使用を妨げてはならない。
J295
　1000―3000GHzの周波数帯は、能動業務及び受動業務に使用することができる。

別表１－１　中波放送の周波数表

チャネル番号	割当周波数（kHz）	チャネル番号	割当周波数（kHz）	チャネル番号	割当周波数（kHz）
1	531	41	891	81	1251
2	540	42	900	82	1260
3	549	43	909	83	1269
4	558	44	918	84	1278
5	567	45	927	85	1287
6	576	46	936	86	1296
7	585	47	945	87	1305
8	594	48	954	88	1314
9	603	49	963	89	1323
10	612	50	972	90	1332
11	621	51	981	91	1341
12	630	52	990	92	1350
13	639	53	999	93	1359
14	648	54	1008	94	1368
15	657	55	1017	95	1377
16	666	56	1026	96	1386
17	675	57	1035	97	1395
18	684	58	1044	98	1404
19	693	59	1053	99	1413
20	702	60	1062	100	1422
21	711	61	1071	101	1431
22	720	62	1080	102	1440
23	729	63	1089	103	1449
24	738	64	1098	104	1458
25	747	65	1107	105	1467
26	756	66	1116	106	1476
27	765	67	1125	107	1485
28	774	68	1134	108	1494
29	783	69	1143	109	1503
30	792	70	1152	110	1512
31	801	71	1161	111	1521
32	810	72	1170	112	1530
33	819	73	1179	113	1539
34	828	74	1188	114	1548
35	837	75	1197	115	1557
36	846	76	1206	116	1566
37	855	77	1215	117	1575
38	864	78	1224	118	1584
39	873	79	1233	119	1593
40	882	80	1242	120	1602

別表１－２　放送衛星業務の周波数表

１　12GHz帯放送衛星業務の周波数表

衛星軌道位置	偏波	チャネル番号	割当周波数（GHz）
東経110度	右旋偏波	1	11.72748
		3	11.76584
		5	11.8042
		7	11.84256
		9	11.88092
		11	11.91928
		13	11.95764
		15	11.996
		17*	12.03436*
		19*	12.07272*
		21*	12.11108*
		23*	12.14944*

＊　これらの周波数の電波の使用に際しては、国際調整が必要な場合がある。